

人権週間企画 ハンセン病差別の歴史を学ぶ

多磨全生園と 「新・あつい壁」上映会

ハンセン病の歴史は差別の歴史です。そしてその差別は今も続いています。
「らい予防法」廃止から20年、国による謝罪から15年。遅すぎましたが、東京教区では先の教区会で、「国の誤った強制隔離政策により様々な人権侵害を受け、差別と偏見の苦しみの中にあつたハンセン病患者・回復者に対する謝罪表明を決議する件」が可決されました。今回、東京教区に所属する「聖フランシス聖エリザベス礼拝堂」のある多磨全生園を訪ね、映画「新・あつい壁」を見ます。



「新・あつい壁」は1962年、ハンセン病療養所への強制収容をめぐり殺人の罪で、無実を訴えながらも死刑になったハンセン病患者の男性（当時40歳）の事件を題材に、差別問題を描く映画。熊本県国立のハンセン病療養所「菊池恵楓園」などで撮影。
（故 神 美知宏さんは2014年に逝去されました。）

日程： 5月28日（土）

場所： 国立多磨全生園

スケジュール

- 11:00 全生園 ハンセン病資料館 自由見学
昼食（全生園内「なごみ」にて）
- 13:00 映画「新・あつい壁」上映
場所：全生園 中央集会室
（ショッピングセンター脇）
- 15:00 藤崎陸安さん（信徒代表）のお話
場所：聖フランシス聖エリザベス礼拝堂
（午後のみ参加の方は直接集会室へ）

【行き方のご案内】

西武池袋線 清瀬駅南口下車
西武バス 久米川駅北口行（約10分）
「ハンセン病資料館」下車

10:24 10:36 発

【申し込み・問い合わせ先等】 佐々木
eメール

k-sasaki4539@fd6.so-net.ne.jp
携帯電話 090-8593-6129

※ 当日の連絡等は井口司祭まで
携帯電話 090-1265-5901

主催 日本聖公会東京教区 人権委員会